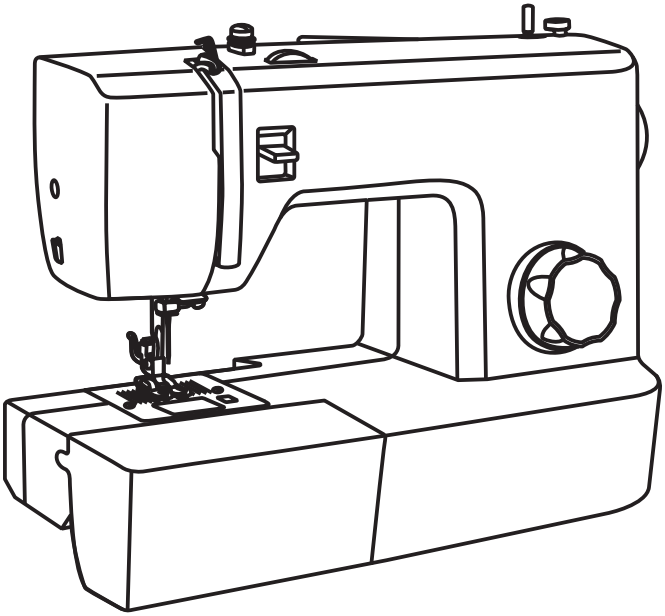
SINGER®

Compact sewing machine
使用の手びき
型式：SN55e



このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」を
ご使用の前に必ずお読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末永くご活用ください。

◆ はじめに

このたびは、ミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用ミシンです。

このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

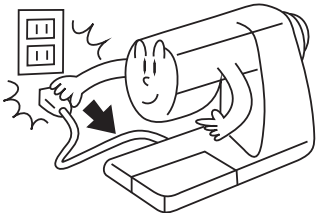
◆ 安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

⚠警告：感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
   - ・ミシンのそばを離れるとき。
   - ・ミシンを使用したあと。
   - ・ミシン使用中に停電したとき。
   - ・接触不良、断線などで正常に作動しないとき。
   - ・雷が鳴りはじめたとき。



⚠注意：感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

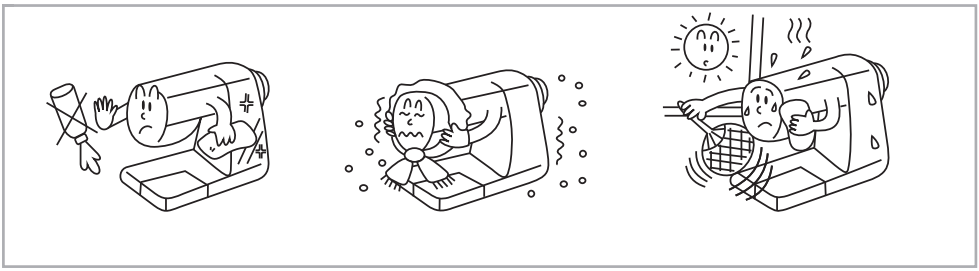
1. お客様自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。
3. ミシンの操作中は、カマカバーなどのカバー類は、必ず閉めてください。
4. 曲がった針、先の痛んだ針はご使用にならないでください。

◆ 安全にご使用いただくために

1. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
2. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
3. 以下の事をするときは、電源スイッチを切ってください。
   - ・針、針板、押えを交換するとき。
   - ・「使用の手びき」に記載のあるミシンの手入れをするとき。
   - ・原則として上糸、下糸をセットするとき。
4. ミシンに以下の異常があるときは、すみやかに使用を停止し、購入店にて点検、修理、調整をお受けください。
   - ・正常に動作しないとき。
   - ・落下などにより破損したとき。
   - ・水に濡れたとき。
   - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
   - ・異常な臭い、音がするとき。
5. ミシンを正しく使用するために、安定したテーブルや机に置いてご使用ください。

◆ ミシンの取り扱い

1. シンナーやベンジンなどでふかないでください。
2. 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。保管は、なるべく寒いところをさけてください。
3. 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。



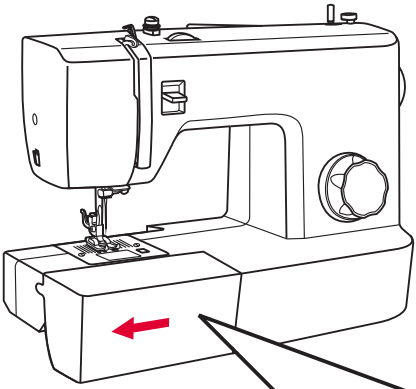
◆ 仕様

型　　式	SN55e
定格電圧	100V
消費電力	70W
周波数	50Hz/60Hz
ＬＥＤライト	Max.100mW
寸　　法	幅：399mm x 奥行：180mm x 高さ：297mm
重　　量	約5.65kg(本体のみ)

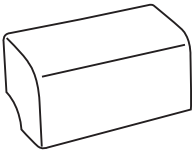
◆目　次

はじめに……1
安全にご使用いただくために……1/2
ミシンの取り扱い / 仕様……3
目次……4
付属品……5
補助テーブル……6
各部の名称……7
電源のつなぎ方と始動・停止……8
ボビンの取り出し方……9
下糸の巻き方……10/11
ボビンのセット……12
上糸のかけ方……13/14
糸通しの使い方……15
下糸の引き上げ方……16
針の取り外し方と取り付け方……17
模様の選び方……18
上糸調子の合わせ方 / 布地の裏側がタオル地のようになるのは……19
押えの取り外し方と取り付け方/押えホルダーの取り外し方と取り付け方／シームガイドの取り付け方……20
押え上げレバー/ ドロップフィードレバーの使い方（送り歯の上げ下げ）……21
直線ぬい……22
返しぬい / ぬい方向のかえ方 / 厚地のぬい始め / 段ぬい……23
飾りぬい / ジグザグぬい……24
まつりぬい（ブラインドステッチ）……25/26
ボタンホールのぬい方……27
ファスナー付け……28/29
ボタン付け……30
ミシンのお手入れ……31
困ったときには……32
LEDライトの交換 / 布地に合わせた針と糸の選び方……33
修理サービス要領……34

◆ 付属品

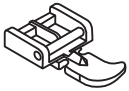


- 補助テーブルは、左方向にスライドさせると本体より取り外せます。
- 付属品は、補助テーブルの中に入っています。

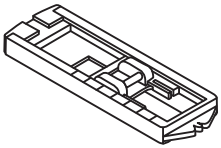


- 開け方は 6 ページの図 2 を参照

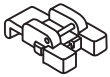
ジグザグ押え
（購入時はミシン本体にセットされています）



ファスナー押え

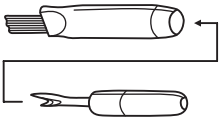


ボタンホール押え



ボタン付け押え

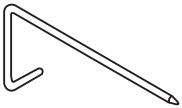
三角ドライバー



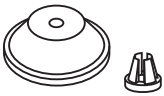
リッパー／ブラシ

針パック

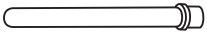
ボビン



シームガイド

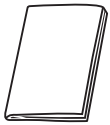


糸コマ押え（大小）
※糸コマが細い時には、（小）を使用してください。

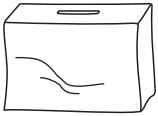


補助糸立棒

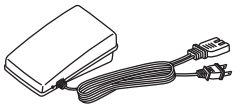
糸コマ座



使用の手びき

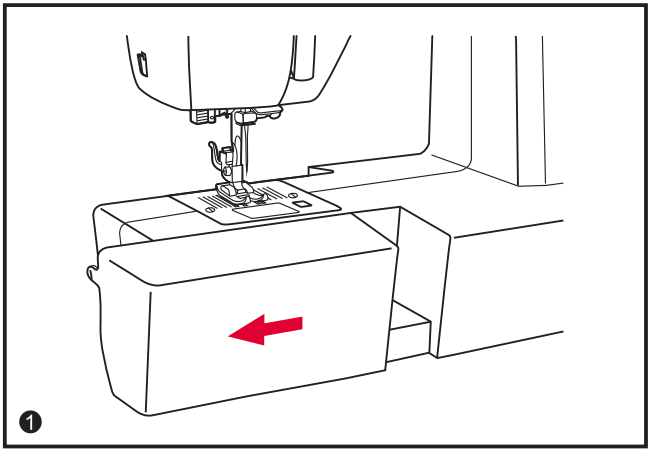


ソフトカバー



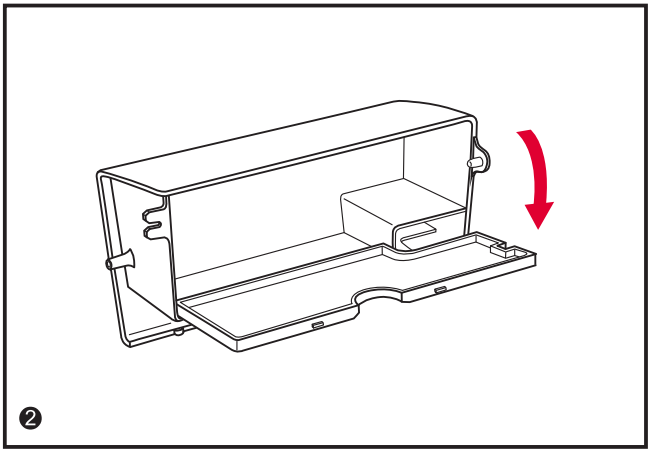
フットコントローラー
（電源コード　一体式）

◆ 補助テーブル



❶ 補助テーブルを外すと、袖口や、裾、袋物をぬうときに利用できるフリーアームになります。

補助テーブルの左端を持って矢印方向に引くと、簡単に外れます。



❷ 補助テーブルの内部は、付属品入れになっています。カバーは手前に開きます。

◆ 各部の名称

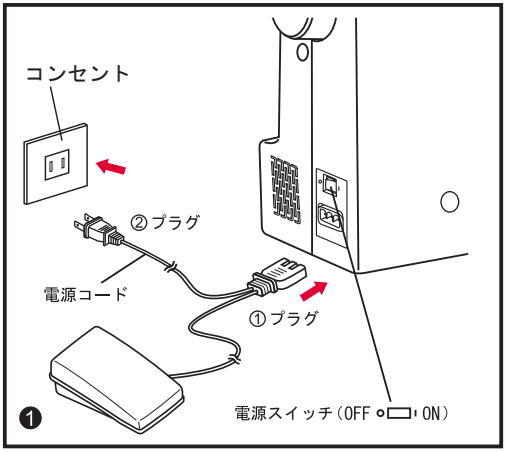
上糸調節ダイヤル
天びん
返しぬいレバー
糸切り
糸通しレバー
糸案内
針棒糸かけ
補助テーブル
模様選択ダイヤル
針止めネジ
押え
糸立棒
下糸巻き軸
ボビン押え
はずみ車
電源スイッチ
フットコントローラー
（電源コード 一体式）
差し込み口
糸案内台
アーム糸かけ
糸ガイド
押え上げレバー
押えホルダー
ドロップフィードレバー

※このレバーで送り歯の上げ下げをします。
通常レバーを背面から見て右の位置に
しておきます。(P21 参照)

フットコントローラー
（電源コード　一体式）

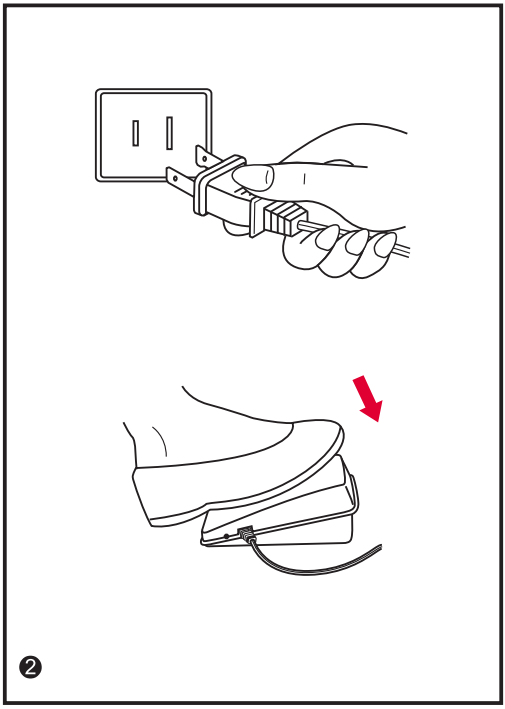
◆ 電源のつなぎ方と始動・停止

⚠警告：感電、火災を防ぐために
電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。



❶ 電源コードのプラグ①をミシンに、プラグ②を家庭用電源（100V50/60Hz）コンセントに差し込みます。

電源スイッチを入れると、照明ランプが点灯します。



❷ **ご注意**
ミシンをご使用にならないときには、必ず電源プラグを抜いておいてください。

警告：感電、火災を防ぐために
コントローラーは落としたり、座ぶとんなどの下において使用しないでください。

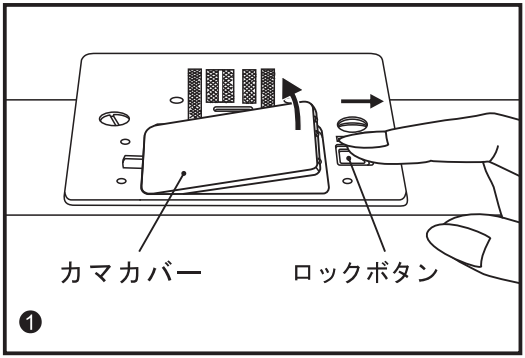
ミシンのスタート・ストップは、フットコントローラーで行います。
フットコントローラーの踏み加減でぬう速度を調節できます。

フットコントローラーの使い方
・軽く踏む：ぬいスピードは遅い
・深く踏む：ぬいスピードは速い

◆ ボビンの取り出し方

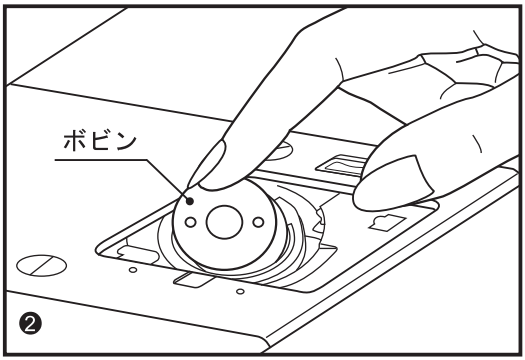
⚠ 注意 :ケガ防止のために

必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



ボビンの取り出しは、カマカバーを開けてから行います。

❶カマカバーの右にあるロックボタンを右へスライドさせると、カマカバーが開きます。



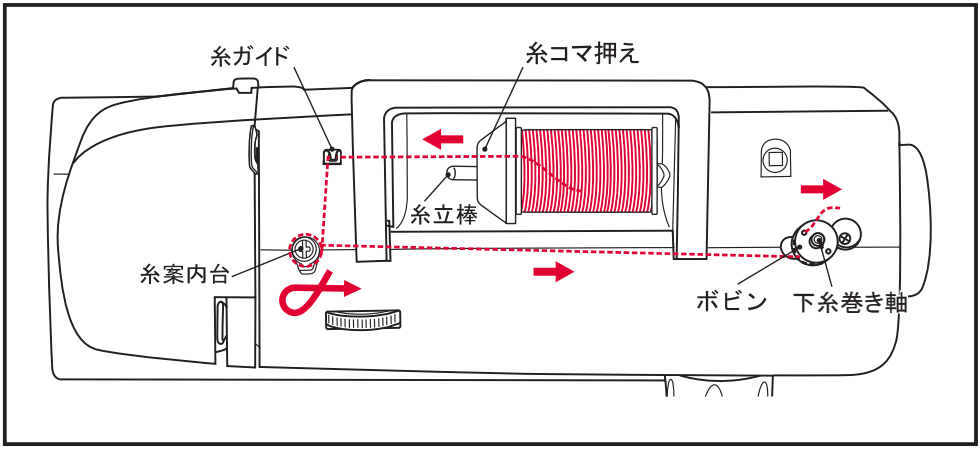
❷カマカバーを外し、ボビンを取り出します。

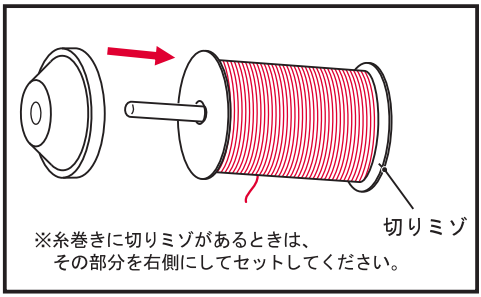
◆ 下糸の巻き方

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

⚠ 注意 :ケガ防止のために

- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、ボビンにきれいに糸が巻けません。
- ボビンは必ず専用ボビン(高さ11. 5mm プラスチック製)を使用してください。専用ボビン以外を使用すると、ミシンが正しく動作しません。ケガ・故障の原因となります。
- ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



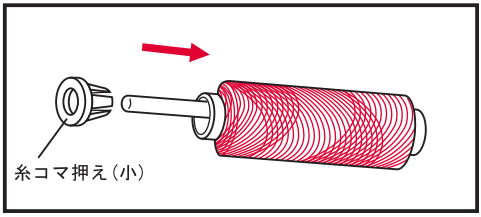


※糸巻きに切りミゾがあるときは、
その部分を右側にしてセットしてください。

糸コマをセットします

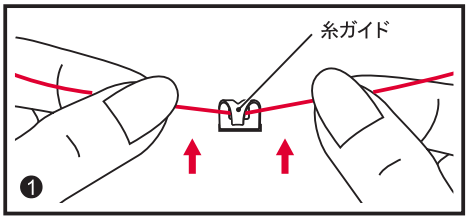
糸立棒を軽く持ち上げ、下側から手前に糸が出る向きにして糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

※小さい糸を使用するときは、
糸コマ押えを裏にして取り付け、糸コマから少し離してセットします。



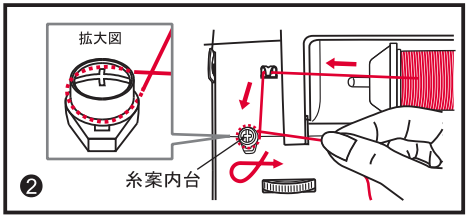
糸コマが細いときには、糸コマ押え(小)をご使用ください。

◆ 下糸の巻き方



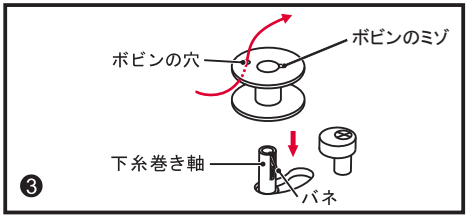
下糸を巻きます

❶ 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの手前から奥に糸を通します。

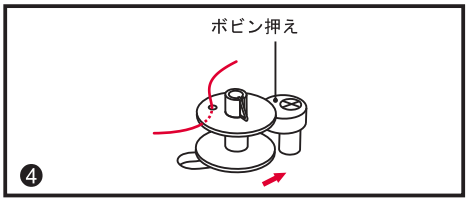


❷ かけた糸の糸はしをさらに引いて、糸案内台の下のすき間に、手前から後ろ（右回り）に糸をかけます。

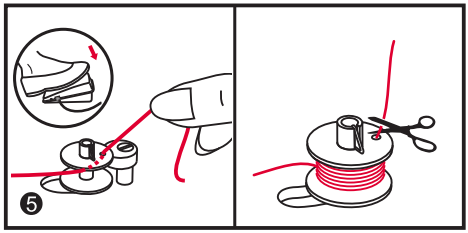
※正しく糸がかかっていると、糸を右に引いたとき、抵抗感があります。



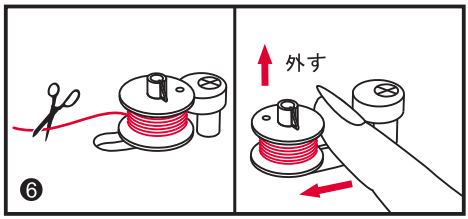
❸ 糸案内台にかけた糸を右に引き出し、ボビンの穴に内から外に通します。ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせ、ボビンを下糸巻き軸に差し込みます。



❹ 下糸巻き軸にセットしたボビンを右方向にスライドさせボビン押えに押し付けます。



❺ ボビンの表面の穴に入れた糸を、10ｃｍほど引き出し、そのまま糸はしを手で真上の方向に持ちます。
フットコントローラーを軽く踏み巻き始めます。少し糸を巻いたら、いったん止めて、ボビンの上に出ている余分な糸を切ります。その後、再度巻きます。

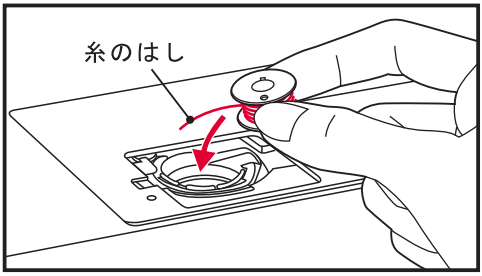


❻ 巻き終わると、ボビンの回転がゆっくりになります。
糸を切り、下糸巻き軸を左に戻してからボビンを取り外してください。

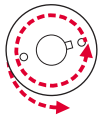
◆ ボビンのセット

⚠ 注意：ケガ防止のために
ミシンを操作する際は、必ずカマカバーを閉めてください。

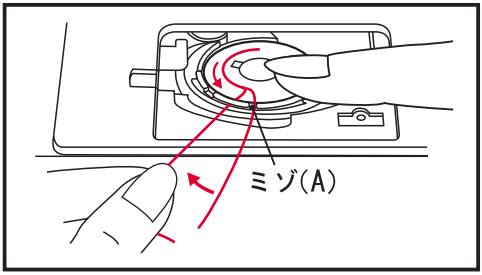
●ミシンへセットします



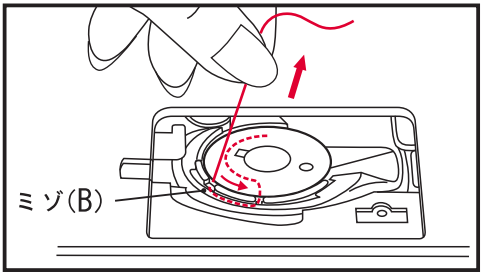
❶ カマカバーを外し、糸のはしを出してカマの中にボビンが左回りになるように入れます。



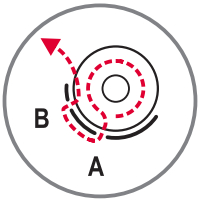
糸の方向

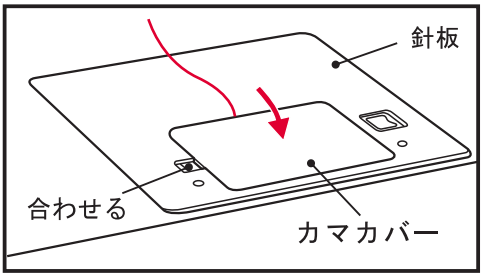


❷ 右手でボビンを押え、左手で糸のはしを引きながら、ミゾ（A）にかけます。



❸ そのまま糸をミゾ（B）にかけ、左奥へ出します。



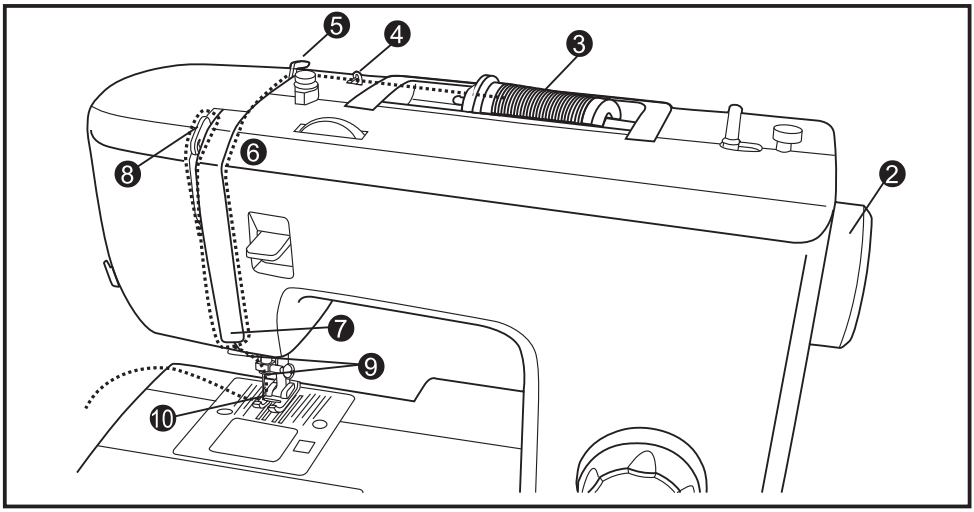


❹ カマカバーの左の突起部分を、針板の下に差し込み、右側を押え、カバーを閉じます。

◆ 上糸のかけ方

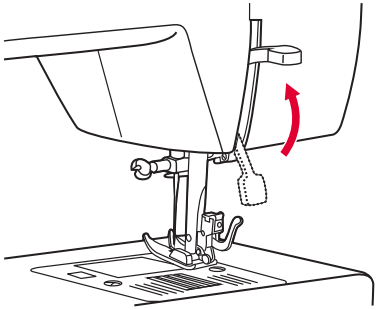
⚠ 注意 :ケガ防止のために

必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



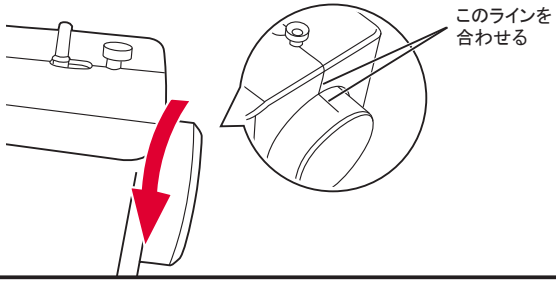
❶

押え上げレバーを上げます。



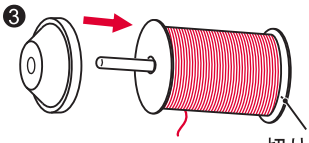
❷

はずみ車を手前に回して、
針上止点ラインを合わせます。



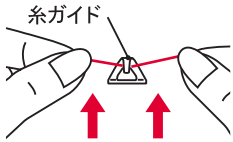
◆ 上糸のかけ方

❸



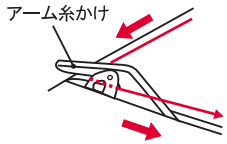
糸コマをセットします。
下側から手前に糸が出る向きにして、糸コマを糸立棒にセットし、糸コマ押えで糸コマを押えます。
※糸コマが細い場合には、糸コマ押え（小）を使用してください。

❹



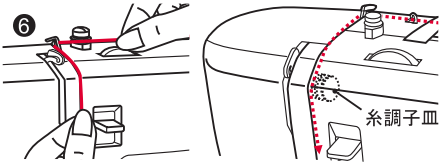
糸ガイドに手前から奥に糸を通します。

❺



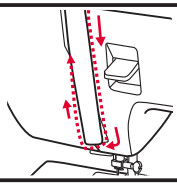
アーム糸かけに後ろから手前に糸をかけます。

❻



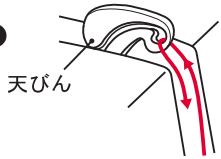
右側の糸道に糸を引きおろし、糸を両手で持ち、糸調子皿の間に通します。
※糸調子皿はミシン内部の部品ですので外からは見えません。

❼



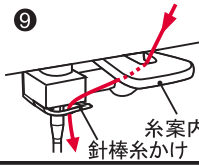
矢印にそって、右から左に糸を引き上げます。

❽

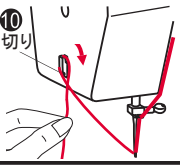


天びんの右から後ろへ糸を回し左前に引き、天びんの穴の奥まで糸をかけます。

❾



❿



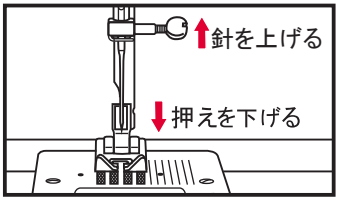
❾ 糸案内に右奥から糸をかけ、続いて針棒糸かけにも右奥から糸をかけます。

❿ 針穴は前から後ろに通します。
余分な糸は糸切りでカットします。

◆ 糸通しの使い方

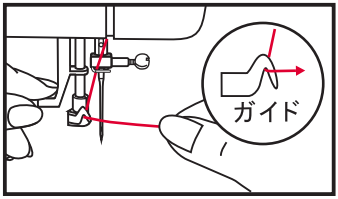
⚠ 注意：ケガ防止のために

- 糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。
- ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。
  糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。

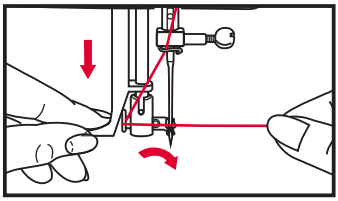


- 押え上げレバーを下げ、押えを下げます。
- はずみ車を手前に回して、針上止点ラインを合わせ針を上げます。（P13参照）

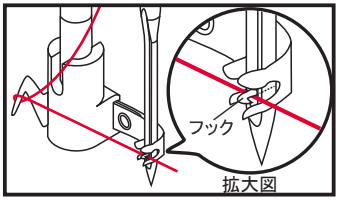
  糸通しが使用できる針は、11番、14番、16番です。



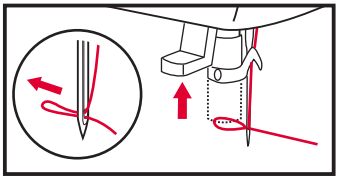
- 糸通しレバーを軽く下げ、糸を糸通しの左側にあるガイドにかけてから、右に引いていきます。



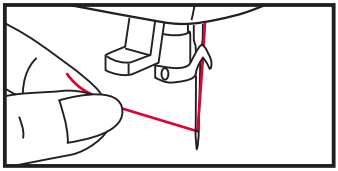
- レバーを一番下までぎゅっと下げます。
  糸通しが回転し、右側の針穴にフックが通ります。



- フックは針側に2ヶ所ある、ガイドの中間にあります。
  針穴が正しい位置でないときは、フックが通りません。
  針位置を確認してください。
  針穴にフックが通らないまま無理に押すと、フックが曲がり針穴に通らなくなることがあります。

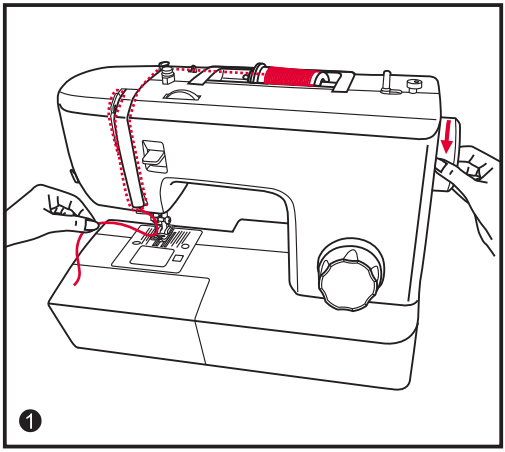


- 糸を軽く持ってレバーを放します。
  糸が輪になって針穴に通ります。
  フックは元の位置に戻ります。

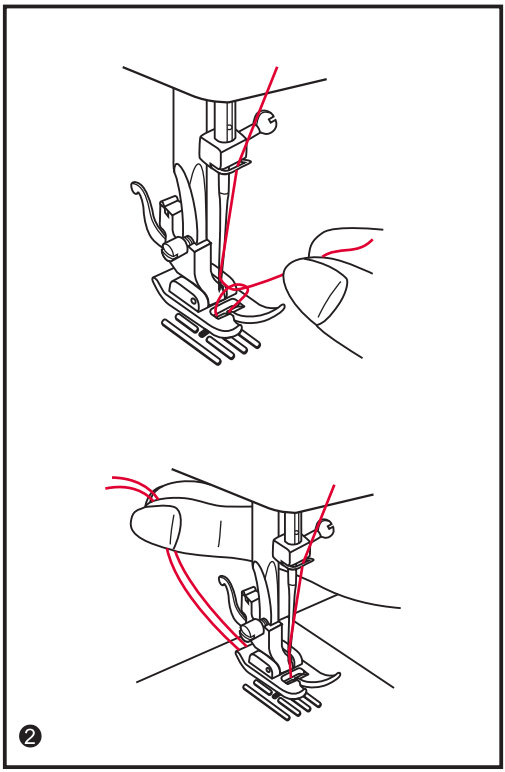


- 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。
  余った糸はミシン本体左側面にある糸切りで切っておきます。

◆ 下糸の引き上げ方



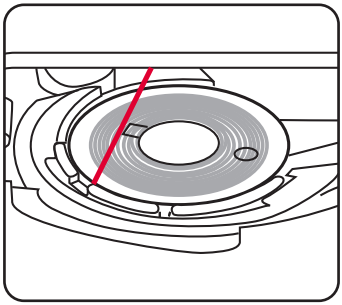
❶ 押え上げレバーを上に上げ、針に通した糸を左手で持ちます。
はずみ車を手前に回して、針をいったん針板の下に下ろし、その後上げます。



❷ 上糸を軽く引っ張ると、下糸が引き出されます。上糸と下糸をそろえ、押えの下から後ろ側に10cmくらい出しておきます。

＜正しくセットできたかを確認する方法＞

下糸を引き上げた後、ボビンを上から見ると左上に1本糸がかかった状態となります。
かかっていないと糸調子がとれず、きれいにぬえません。
もう一度下糸をセットし直してください。

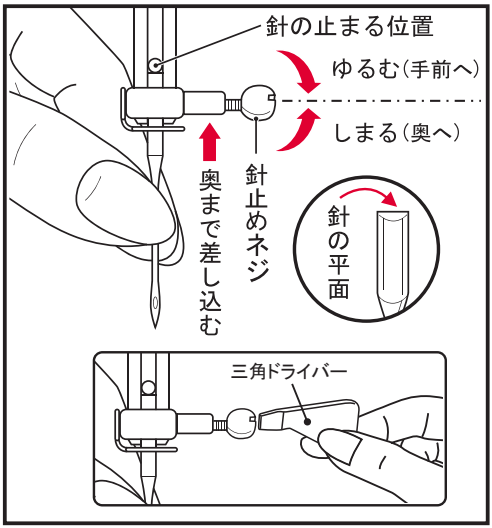


◆ 針の取り外し方と取り付け方

⚠ 注意：ケガ防止のために

- 曲がった針や針先がつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 針は必ず家庭用ミシン針（HAx1）をご使用ください。

針は、布地や糸に合わせて選びます。33ページの「針と糸と布地の組み合わせ」を参照してください。



電源を切ります。

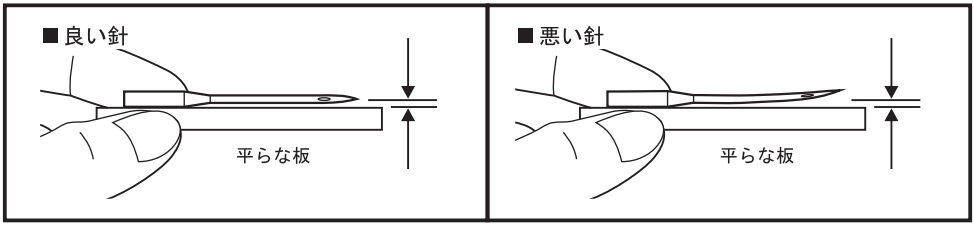
押え上げレバーを下に下げます。

はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げます。

針止めネジを三角ドライバーで手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。

新しい針の裏面（平らな面）を向こう側（針棒側）に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジを三角ドライバーで締め付けます。

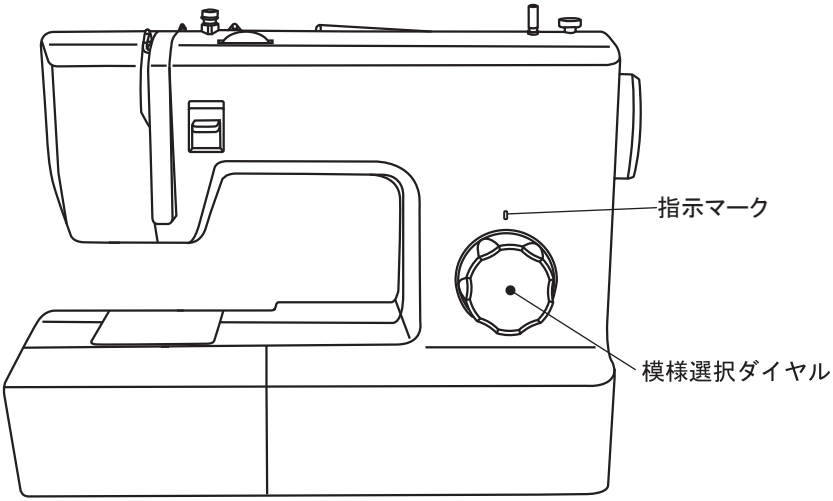
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



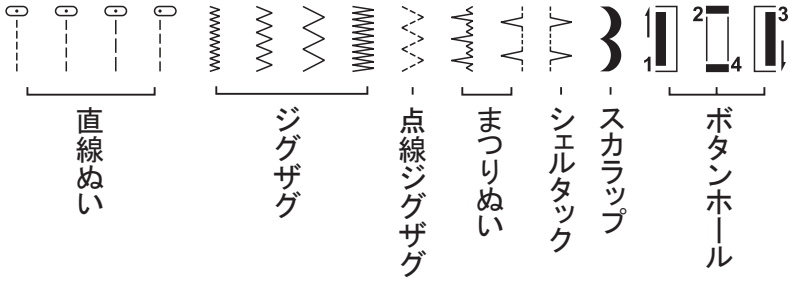
◆ 模様の選び方

⚠ 注意：ケガ防止のために

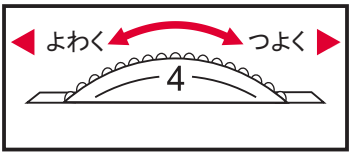
模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げてください。
針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。



模様選択ダイヤルを回して 指示マークにぬいたい模様を合わせて模様を選択してください。



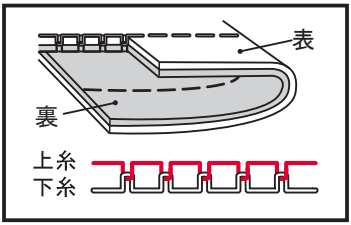
◆ 上糸調子の合わせ方



● 上糸調節ダイヤル

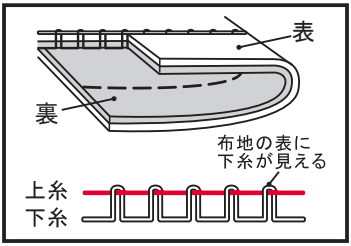
通常、上糸調節ダイヤルを「ー4ー」に合わせると、一般的な糸や布で糸調子が合う様に調節されています。

糸調子は、上糸調子ダイヤルを回し調整します。
【糸調子を強くする】 ダイヤルの数字を大きくする
【糸調子を弱くする】 ダイヤルの数字を小さくする



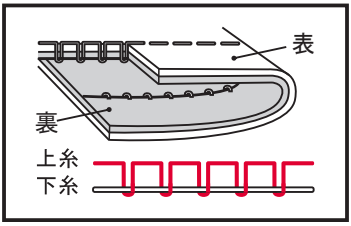
● 正しく調節されている場合

左記のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常なぬい目です。
布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするときは、下図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。



● 上糸が強い場合

布の表の糸が１本になっている時は、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。
または、上糸の糸調子が強いので、糸調子ダイヤルの数字を小さくして糸調子を弱くしてください。

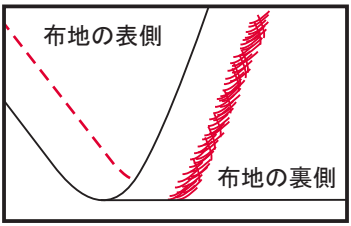


● 上糸が弱い場合

布の裏側の糸が１本になっている時は、上糸の糸調子が弱いので、糸調子ダイヤルの数字を大きくし、糸調子を強くしてください。

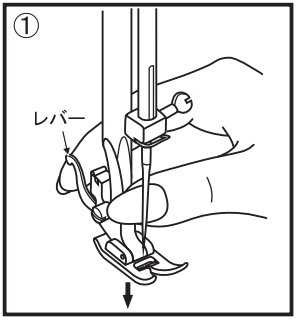
ダイヤルを回しても糸調子が合わない場合には、上糸のかけ方が誤っている場合があります。
一度上糸を外し、「使用の手びき」をご確認いただき、正しくかけ直してください。

◆ 布地の裏側がタオル地のようになるのは

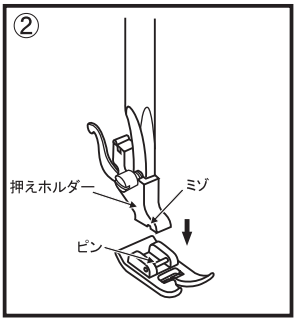


左図のように、布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のように糸が出ているのは、上糸をセットする際に、押え上げレバーを下げたまま糸かけをしてしまっていたり、上糸調子が弱い場合に起こる現象です。
「使用の手びき」をご確認いただき、正しく糸をかけ直してください。
上糸調子を調節する際は、上記をご確認ください。

◆ 押えの取り外し方と取り付け方

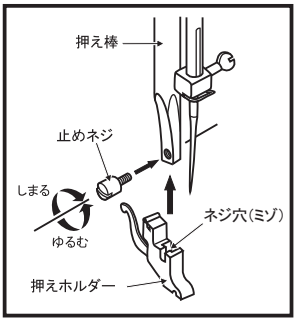


①押えの取り外し方
押え上げレバーを上げ、押えを上げます。
押えホルダーのレバーを手前に押すと、押えが外れます。



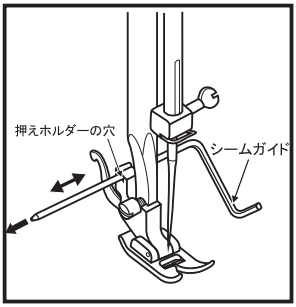
②押えの取り付け方
交換したい押えのピン部分を押えホルダーのミゾの真下におきます。
静かに押え上げレバーを下ろし、押えのピンを押えホルダーのミゾにいれます。

◆ 押えホルダーの取り外し方と取り付け方



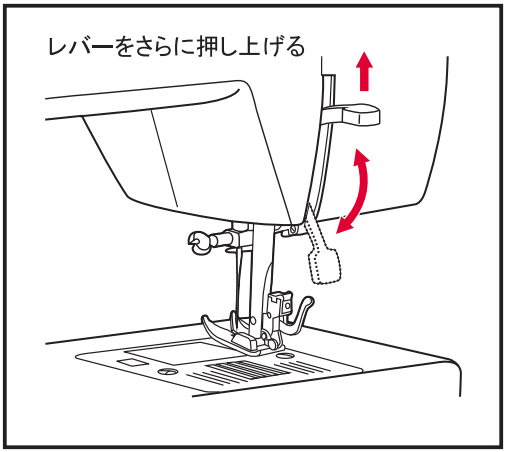
・押えホルダーの取り外し方
はずみ車を回して、押えを上げます。押えを取り外し、三角ドライバーを使い、止めネジを奥に回してゆるめて、押えホルダーを取り外します。
・押えホルダーの取り付け方
押えホルダーのネジ穴と、押え棒のネジ穴の高さを合わせ止めネジで取り付けます。止めネジは、三角ドライバーで手前に回して締め付けます。
※押えの交換は、押えホルダーを取り付けたまま行います。取り外す必要はありません。

◆ シームガイドの取り付け方



・シームガイドの取り付け方
シームガイドは、取り付けることで、平行のステッチや均一なステッチをぬうためのガイドになります。
押えホルダー後ろ上部にある穴に右側から差し込み取り付けます。
ガイドを左右させることで、ガイドとなるステッチ幅の変更ができます。

◆ ２段式押え上げ

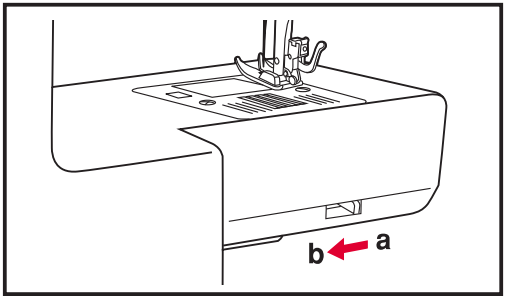


布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上にあげることができます。

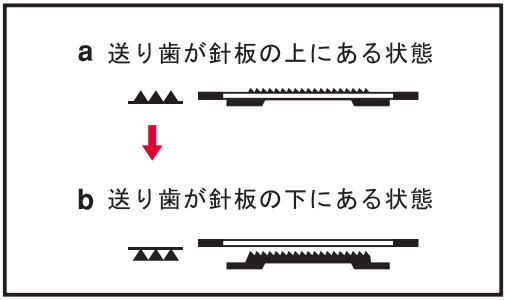
※このとき、レバーは固定されません。

手を離すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。

◆ ドロップフィードレバーの使い方（送り歯の上げ下げ）



本体背面右下に、送り歯を上げ下げできるドロップフィードレバーがあります。



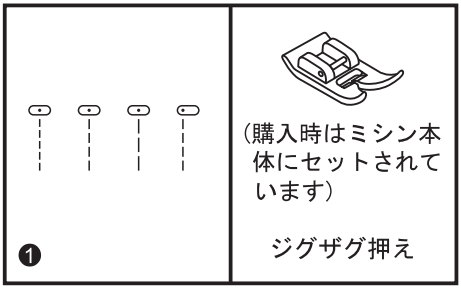
針を上に上げた状態で、レバーをスライドして、"▲▲▲"（b）位置にセットすると、送り歯が針板上面より下に沈みます。

また、"▲▲▲"（a）位置にセットし、はずみ車を手前に回すと、送り歯が針板上面に出てきます。

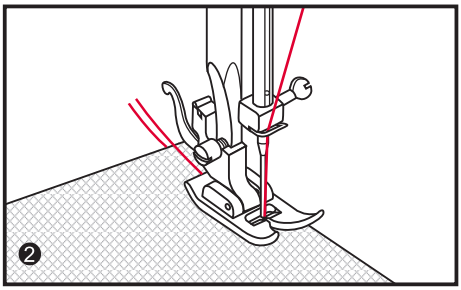
◆ 直線ぬい

⚠ 注意：ケガ防止のために

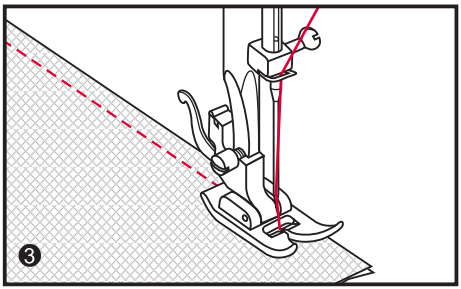
- 針先には十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れ、ケガをする恐れがあります。



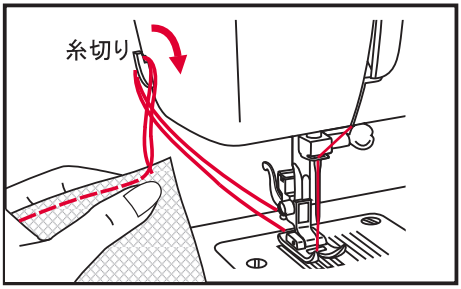
❶ 押えはジグザグ押えを使用してください。
模様選択ダイヤルで、4種類の直線から模様を選びます。
上糸調節ダイヤルを3～5に合わせます。



❷ 布地を押えの下に置き、ぬい始める位置ではずみ車を手前に回し、針を差してから、押え上げレバーを下げて押えを下ろします。
フットコントローラーを足で踏み、スタートさせます。

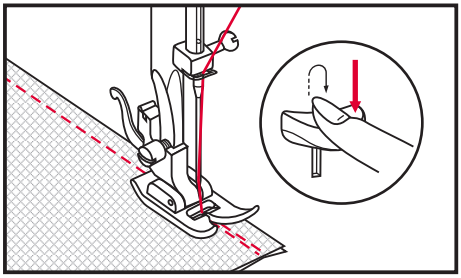


❸ ぬい終わったらフットコントローラーから足を放して、ストップします。
はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げます。



❹ 押えを上に上げ、布地を取り出します。
ミシン本体左側面にある糸切りに糸をかけて手前に引くと糸が切れます。

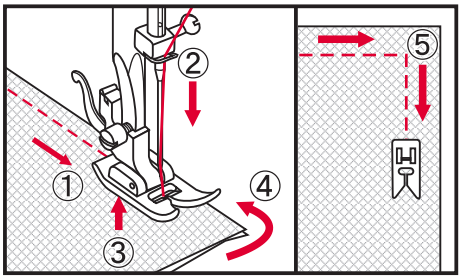
◆ 返しぬい



フットコントローラーを踏みながら、返しぬいレバーを押し下げます。押し下げている間は、返しぬいができます。
レバーを放すと前進に戻ります。

ぬい始めとぬい終わりに３～５針返しぬいをしておくと、ぬい目がほころびず、丈夫になります。

◆ ぬい方向のかえ方



① 布地の角まで来たら、フットコントローラーから足を放します。

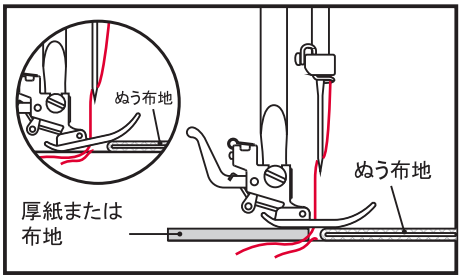
② はずみ車を手前に回し、針を下げ、布に刺します。

③ 押え上げレバーを上げ押えを上げます。

④ 針を軸にして布地を回し、布地をぬい方向にセットします。

⑤ 押えを下げて、ぬい始めます。

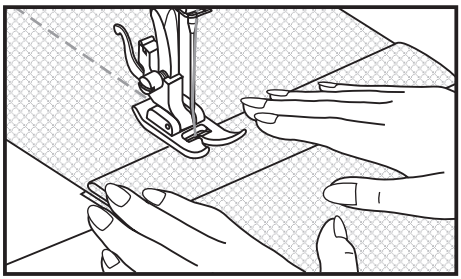
◆ 厚地のぬい始め



厚地の布はしからぬい始めるときに押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。

このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがい、段差をなくしてからぬい始めます。

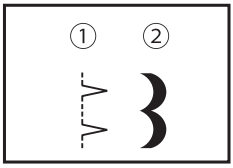
◆ 段ぬい

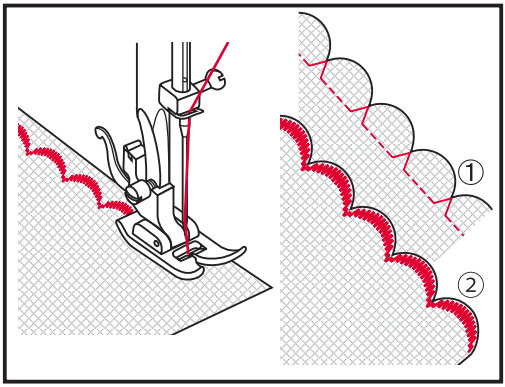


布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

◆ 飾りぬい

ジグザグ押え





①シェルタック

布はしの飾りぬいに使います。薄手の伸縮性のある布に適しています。

模様選択つまみは、”　”にセットします。
針が右振れしたときに、生地のはしにくるように布地をセットしてください。

②スカラップぬい

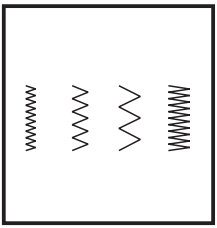
布はしに沿って、デリケートな仕上げをしたいときに使います。

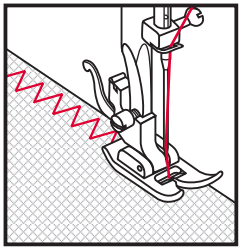
模様選択つまみは、”　”にセットします。

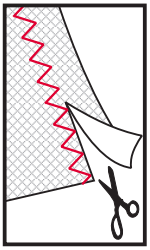
布の表から布はしを１ｃｍくらい残してぬいます。糸を切らないように、ぬい目の外側の布をぬい目にそって切り落とします。

◆ ジグザグぬい

ジグザグ押え





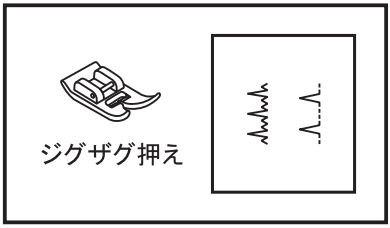


ジグザグぬいの糸調子は、直線ぬいに比べ、上糸をやや弱めにし、裏に上糸がでるくらいが適当です。

※伸縮性のある布（ニット、ジャージ、トリコットなど）には、市販の接着芯をあてるときれいにぬえます。

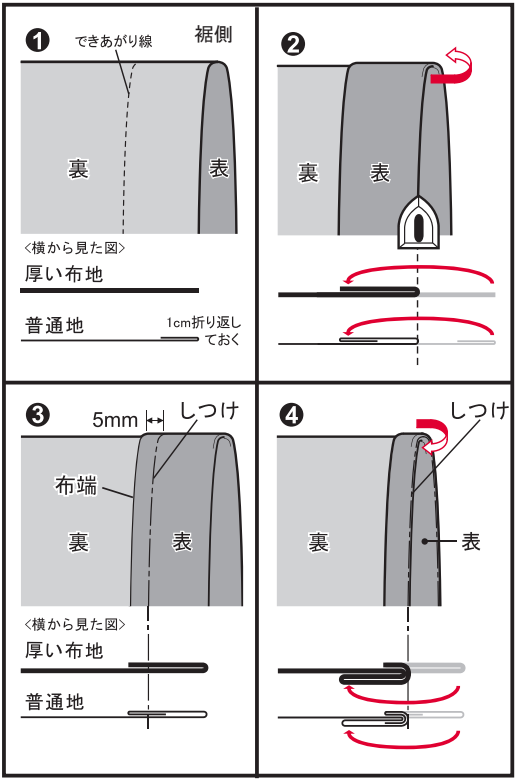
裁断した布はしがほつれないように、縁かがりとしてぬう場合は、ぬい代を少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

◆ まつりぬい（ブラインドステッチ）



ズボンやスカートの裾、袖口のまつりに使います。
押えはジグザグ押えを使用してください。

スカートやズボンの裾は、次の手順でまつります。

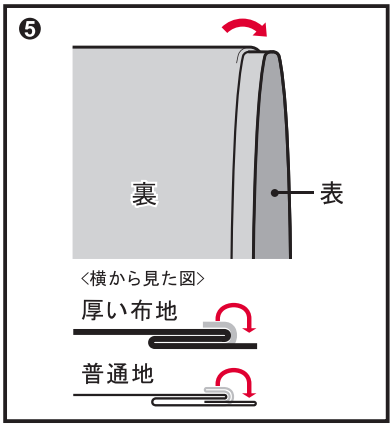


❶ 裾上げするスカートやズボンを裏返します。

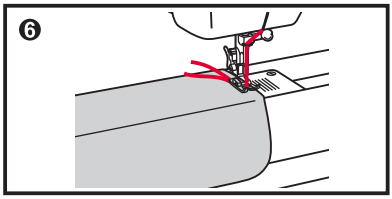
❷ できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。

❸ 布はしから約5mmのところにチャコペンなどで印をつけ、しつけをします。

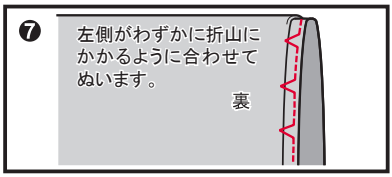
❹ しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



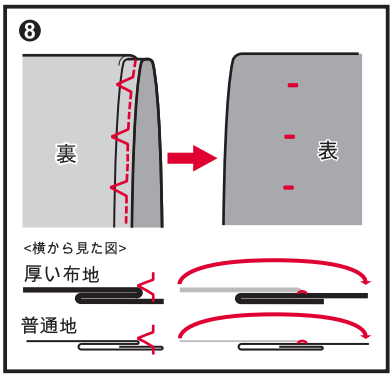
❺ 布はしを開きます。



❻ ミシンをフリーアームにし、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認してください。

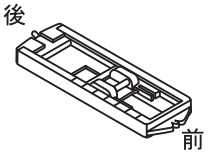


❼ はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。その時に針が折山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。

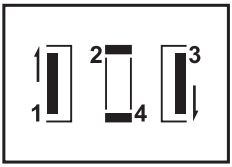


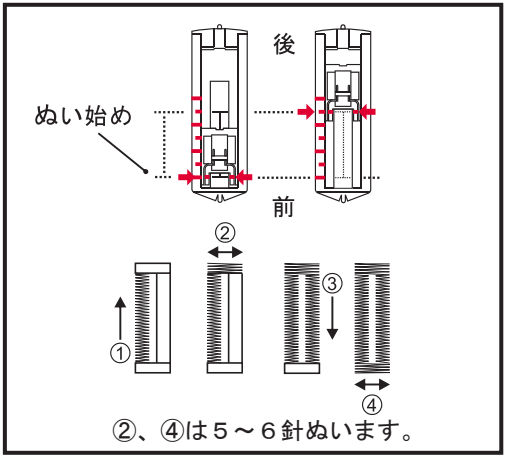
❽ しつけをほどき、布地を表に返します。

◆ ボタンホールのぬい方

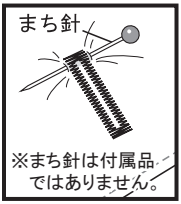


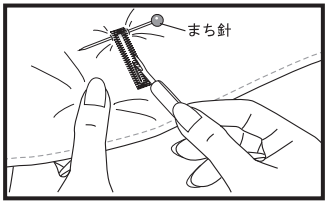
ボタンホール押え





②、④は５～６針ぬいます。





準備

- ボタンホール押えに交換します。

  ボタンの直径＋厚みをボタンホールの穴かがり部分の長さとします。布にボタンホールのサイズを印します。

- ミシンに布をセットします。布に付けたボタンホールの印の一番下中心部分に押えの穴の中央を合わせて押えを下げ、押えの手前に隙間が空かない様にセットします。
- ４段階でボタンホールをぬいます。

  模様選択ダイヤルの図の１～４の順にダイヤルを合わせます。②と④は同じ動作になるので、押えをセットする上下の場所だけ変更してください。

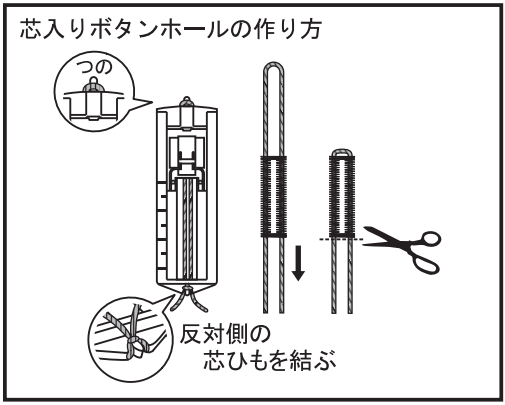
  左図の①～④の順でぬいます。
- ぬい終わったら、付属のリッパーでボタンホールを切り開きます。

※ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺してから開きます。
※まち針は付属品ではありません。

⚠注意：ケガ防止のために

リッパーで穴を開けるとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。
すべったときにケガをする恐れがあります。

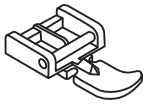
ヒント
・上糸の糸調子を少し弱くすると、きれいに仕上がります。
・薄手の布および伸縮性のある布には、必ず市販の接着芯を当てるようにしてください。



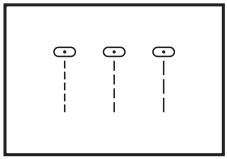
芯入りボタンホールの作り方

- 伸びる布地にボタンホールをぬう時はボタンホールに芯ひもを入れると丈夫になります。
- 芯ひもの輪を押えの後ろ側にあるつのにかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し前側のつのにはさみ結びます。
- 通常のボタンホールと同じ手順でボタンホールを作ります。
- ボタンホールができたら、左側の芯ひもを引いて、たるみをなくし、余分な糸を切ります。

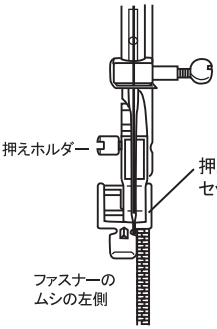
◆ ファスナー付け



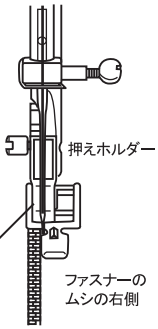
ファスナー押え



左側をぬう場合



右側をぬう場合

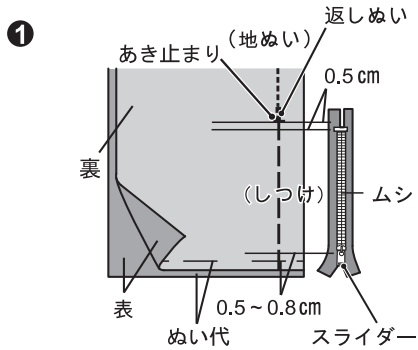


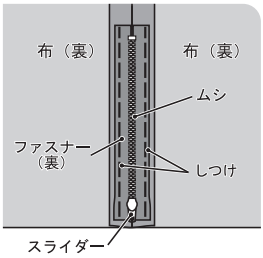
模様選択ダイヤルは、″ ″ の直線を選びます。

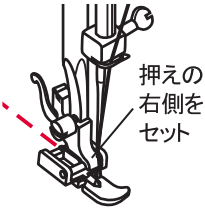
ファスナー押えは、ぬう側に合わせて、左右どちらかにセットします。

ファスナーのムシの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーにセットしてください。
ファスナーのムシの右側をぬうときは、押えの左側のミゾを押えホルダーにセットしてください。

ファスナーのつけ方には「つきあわせ」と「脇あき」があります。







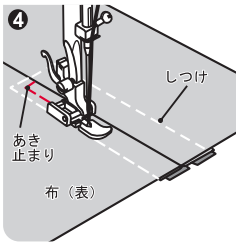
● つきあわせ

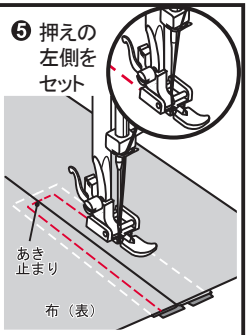
①中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。
※数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

②ぬい代をわり、ぬい目にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけします。しつけはほどきやすいよう粗めでぬいます。

③ファスナー押えの右側を押えホルダーに取り付けます。（ファスナーのムシの左側をぬう場合）

◆ ファスナー付け

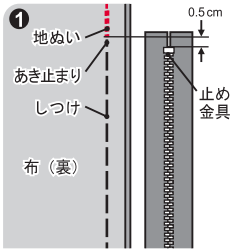


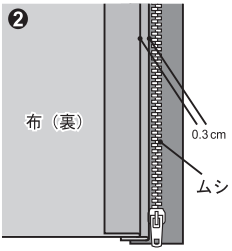


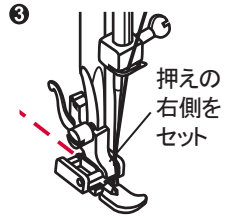
④ファスナー左側を、布の合わせ目から0.7〜1ｃｍ離して、あき止まりからぬいます。

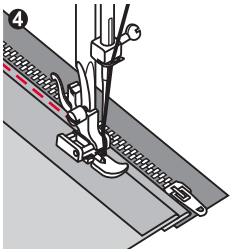
⑤ファスナー押えのミゾを左側にセットし、あき止まりの右側もぬい、しつけをとります。右側も同様に布の合わせ目から0.7〜1ｃｍ離してぬいます。

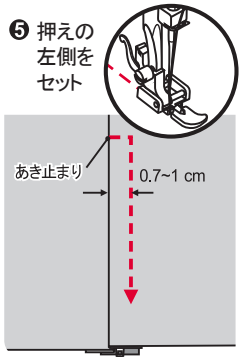
● 脇あき

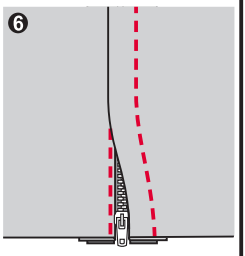












● 脇あき

①中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

②ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3ｃｍ出して折り目を付け、折り山をムシに合わせます。

※数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

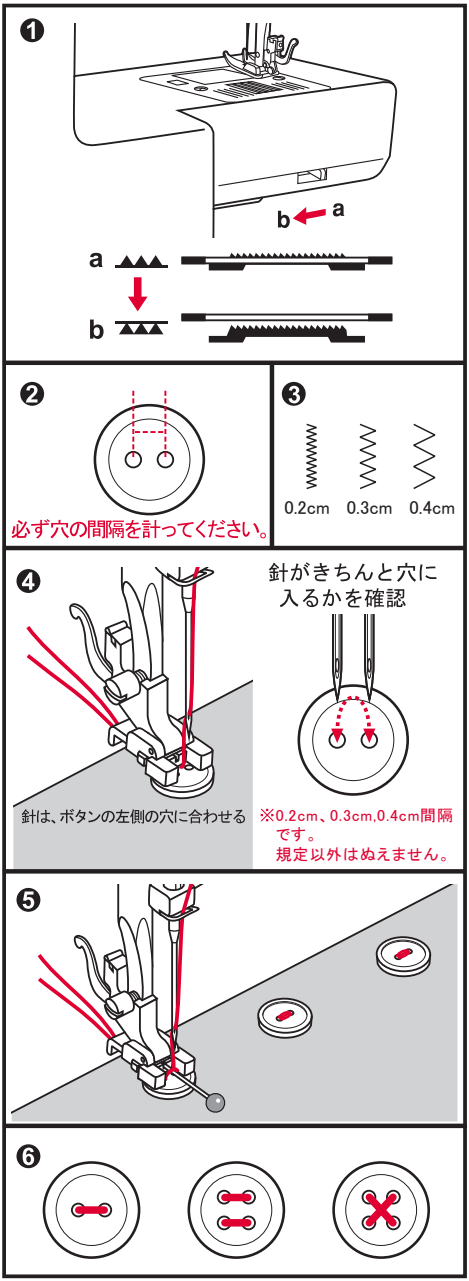
③ファスナー押えの右側を押えホルダーに取り付けます。（ファスナーのムシの左側をぬう場合）

④ ファスナーの左側を、あき止まりからぬいます。押えがファスナーのムシに乗らないようにしてぬいます。

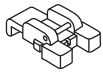
⑤ファスナー押えのミゾを左側にセットし、上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。右側の布の折り目から、0.7〜1ｃｍ離してぬいます。

⑥スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

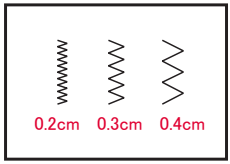
◆ ボタン付け



ボタンつけ押えに変えます。



ボタンつけ押え



①ドロップフィードレバーを（b）に移動して、送り歯を下げます。
（ドロップフィードの使い方　２１ページ参照）

②一度にぬえるのは２つの穴だけです。
ボタンの穴の間隔を定規を使って測ります。
穴の中心から、もう片方の穴の中心までを計ってください。

③ボタンの穴に合ったジグザグぬいを選びます。
※規定サイズ以外のボタンはぬえません。

④はずみ車を手前に回して、針が左に来たときに、ボタンの左の穴に下りるようにして押えを下げます。
はずみ車を回して、針が左右の穴に下りることを確かめます。

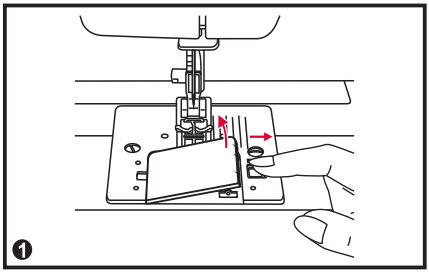
⑤付けるボタンに余裕をもたせたいときは、ボタンの上にまち針を乗せてぬいます。
※まち針は付属品ではありません。

⑥４つの穴を持ったボタンについては、先に２つの穴をぬい、それから残りの２つの穴をぬいます。

※ボタン付けが終わったら、必ずドロップフィードレバーを（a）の方向に戻し、はずみ車を手前に回して、送り歯を上げておきましょう。

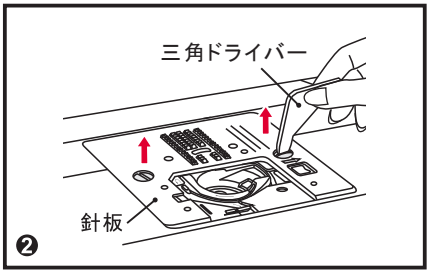
◆ ミシンのお手入れ

⚠ 注意：ケガ防止のために
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

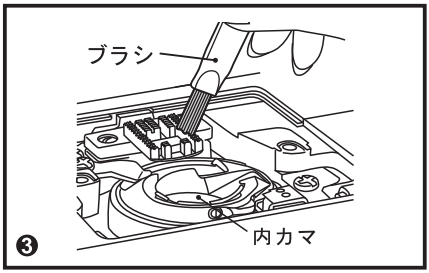


●内カマと送り歯の掃除

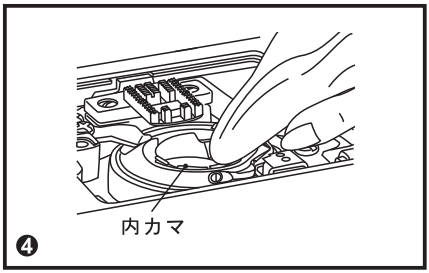
❶ カマカバーを外して、ボビンを取り出します。



❷ 針板の止めネジ（2ヶ所）を、付属の三角ドライバーで左回りに回して外し、針板を取ります。



❸ ブラシで送り歯に付いた糸クズやほこりを掃除します。



❹ 内カマをブラシで掃除して、布などで軽くふきます。

掃除が完了したら、必ず針板を止めネジで取り付け、カマカバーをつけてください。

◆ 困ったときには

問題	原因	解決方法
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れてください。
	下糸巻き軸が右へ押されているとき。	下糸巻き軸を左に戻してください。
	内カマに、糸やごみがたまっているとき。	内カマの掃除をして、糸やゴミを取り除きます。
ぬえない	糸かけが間違っているとき。	使用の手びきを確認して、上下糸をかけ直してください。
	針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	針を交換してください。
	針の装着方法が間違っているとき。	取り付け方向を確認して、正しく取り付けます。
	糸が劣化しているときや、古い糸を使用しているとき。	新しい糸をご使用ください。
	針のサイズが布にあわないとき。	布に合った針に交換してください。
	内カマに、糸やごみがたまっているとき。	内カマの掃除をして、糸やゴミを取り除きます。
糸調子が合わない	針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	針を交換してください。
	針の装着方法が間違っているとき。	取り付け方向を確認して、正しく取り付けます。
	糸が劣化しているときや、古い糸を使用しているとき。	新しい糸をご使用ください。
	ボビンに正しく糸が巻かれていないとき。	使用の手びきを確認して、正しく糸を巻き直してください。
	ボビンのセットが間違っているとき。	使用の手びきを確認し、正しくボビンをかけ直してください。
	上糸のかけ方が間違っていたり、余計な部分にひっかかっているとき。	使用の手びきを確認して、上下糸をかけ直してください。
	布地に対して糸と針が合っていないとき。	「布地に適した針と糸の選び方」(P33)を参考に正しいものに交換してください。
布地が縮む	上糸のかけ方が間違っていたり、余計な部分にひっかかっているとき。	使用の手びきを確認して、上下糸をかけ直してください。
	針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	針を交換してください。
	上糸の糸調子が強すぎるとき。	上糸調子をゆるめてください。(小さい数字)
ぬい目が飛んだり、つった状態になる	ボビンのセットが間違っているとき。	使用の手びきを確認し、正しくボビンをかけ直してください。
	ボビンに正しく糸が巻かれていないとき。	使用の手びきを確認して、正しく糸をかけ直してください。
	上糸のかけ方が間違っていたり、余計な部分にひっかかっているとき。	使用の手びきを確認して、上下糸をかけ直してください。
	上糸をかけるときに、押え上げレバーを上げていないとき。	押えを上げた状態で、上糸をかけ直してください。

◆ LED ライトの交換

ミシンに装備されているＬＥＤライトは非常に長持ちなので、通常交換の必要はありません。もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

◆ 布地に適した針と糸の選び方

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。この表を目安に、布地にあった針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※必ずミシン専用の糸をご使用ください。

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガンジー、ボイル、絹布など。	スパン系糸 90 （ポリエステル） 綿 80～100 絹 60～80	9～11 番
普通地	ギンガム、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手コーデュロイ、別珍、一般服地など。	スパン系糸 60 （ポリエステル） 綿 50～80 絹 50	11～14 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイ、ジーンズなど。	スパン系糸 60 （ポリエステル） 綿 40～50 絹 50	14～16 番
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	スパン系糸 60 （ポリエステル） レジロン系糸 50	11～14 番 ニット用針

・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
・ニット用針は伸縮性のある布地や目飛びしやすい布地に使用します。
・購入時は、１４番の針がミシンに取り付けられています。

※綿や絹の糸は、経年劣化により切れやすくなります。
　なるべく新しい糸をお使いください。（目安として製造より２年）

※ナイロン透明糸およびメタリック糸、また手ぬい用の糸（キルト糸）などは
　使用しないでください。

＜オススメ＞
スパン系（素材：ポリエステル）の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、
また長持ちします。

◆ 修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から１年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常８年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

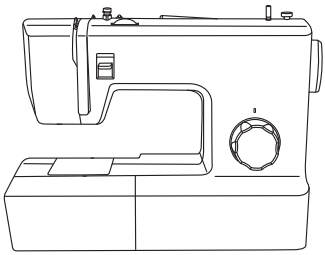
1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。

   ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。

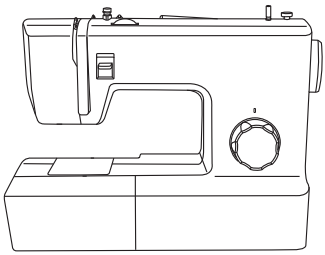
   イ．保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
   ロ．浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
   ハ．ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
   ニ．ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
   ホ．職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
4. このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

１６０年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

メモ



メモ



株式会社ハッピージャパン
〒110-0016　東京都台東区台東2丁目9番5号
TEL.03-3837-1865
（本社）〒990-2251　山形県山形市立谷川3丁目3515

021Q0F0402-01(JP)